

輝け！シン尾花沢中

第100号

令和7年

10月7日

けだかく晴れた 月の峰 雲間にそそる 鳥海も

「SDGsの視点」と「協力する大切さ」～資源回収～

10月5日（日）に、地域の方々、保護者の皆様のご協力で、資源回収を実施することができました。おかげさまで、事故もなく、たくさんの資源を回収することができました。

この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

■SDGsの視点

人類がこの地球上で暮らし続けていくために、2030年までに達成すべき目標「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）」の目標のうち、目標12は「つくる責任、つかう責任」と示されています。これは、限りある地球の資源を守るため、持続可能な生産と消費のバランスを形成することを意味しています。



今回集まった新聞紙や冊子、アルミ缶、そして段ボールの山を見たときに「そのまま廃棄してしまえば、二酸化炭素も輩出するし、灰もたくさん出てしまう。資源として再利用するか、廃棄するか、の判断は、地球に住む私たちにとって極めて重要である」と実感したところです。地球という奇跡の星に生かされているありがたさを感じながら、これからも資源を大切にする行動を心がけていきたいものです。

■協力する大切さ

今回、尾中生は、地域や保護者の方々、そして仲間と協力して資源の回収・運搬・整理に励んでくれました。特に3年生は、学校駐車場に集まり、回収された資源の運搬・整理を行ってくれました。次から次へと回収されてくるたくさんの資源にくじけそうになるときもありましたが、弱音を吐かず、みんなで協力して粘り強く活動し、すべての処理をやり切りました。終了後の、笑顔と達成感に満ちあふれた3年生の表情が強く印象に残りました。

これから、3年生は自身の進路を切り拓いていく時期にさしかかります。苦しいときもあるでしょう。しかし、一人ではなかなか成し遂げられない高いハードルも、仲間と協力してなら跳ぶことができます。まさに、学年スローガン「One for all, all for one」ですね。



【文責：校長 工藤雅史】